

市立幼稚園の閉園協議に対する回答について

幼児教育は、生涯にわたる人間形成の基礎を培う重要な役割を担っており、その教育効果を担保するには、一定規模以上の集団で行う教育活動が欠かせません。しかしながら、そうした教育環境を確保し、維持することは、全国的に少子化の進行や保育所へのニーズが高まる中で、年々厳しさを増しています。

本市においては、「学級数 1 以下（園児数が 10 人未満）の状態が 2 年続く」場合には、近隣の幼稚園において集団教育の環境を提供することを前提に、地元の了解を得ながら幼稚園の閉園を検討することとしています。（平成 24 年策定「出雲市立幼稚園の閉園に関する方針」）

このたび、市から閉園協議を行った乙立幼稚園、上津幼稚園の今後のあり方について、地元から回答がありました。両園の今後のあり方について、ご意見を伺います。

1. 乙立幼稚園に関する経過と回答

(1)閉園協議に至る経過

- ①平成 28、29 年度の 2 年連続して園児数が 10 人未満であり、平成 29 年 9 月、乙立地区再編統合推進委員会に対し現状及び今後の見込について説明し、閉園協議を開始。
- ②平成 31 年度は在園児が 0 人となる見込みであり、平成 30 年 5 月、乙立自治協会に対し、「（乙立小学校と朝山小学校が統合する）平成 31 年 3 月 31 日をもって乙立幼稚園を閉園すること」について、文書での回答を依頼。

○出生数、園児数（5/1 時点）の推移

年度	H26	H27	H28	H29	H30
地区内出生数	4	3	4	3	—
園児数計	2	休園	2	2	1
（3 歳児）	0	0	1	0	0
（4 歳児）	0	0	1	1	0
（5 歳児）	2	0	0	1	1

(2)地元からの回答

平成 30 年 7 月に、乙立自治協会から次のとおり回答があった。

「当分の間（2～3 年間）休園を希望します」

（回答書は別紙参照）

2. 上津幼稚園に関する経過と回答

(1)閉園協議に至る経過

- ①平成 29、30 年度の 2 年連続して園児数が 10 人未満であり、平成 30 年 5 月、上津幼稚園運営協議会に対して現状と閉園協議が必要となることを説明。
これを受け、上津地区自治協会において検討を開始。
- ②平成 30 年 6 月、上津幼稚園運営協議会に対し、「上津幼稚園の今後のあり方」について、文書での回答を依頼。

○出生数、園児数（5/1 時点）の推移

年度	H26	H27	H28	H29	H30
地区内出生数	3	4	11	4	—
園児数計	12	7	10	9	9
（3 歳児）	3	0	5	2	2
（4 歳児）	2	3	2	5	2
（5 歳児）	7	4	3	2	5

(2)地元からの回答

平成 30 年 7 月に、上津幼稚園運営協議会から次のとおり回答があった。

「閉園について地元は同意しない。」

「幼稚園については様々な体制作りを実践中であるので今後 4、5 年間はその成果について経過を見る必要があると考えている。」

（回答書は別紙参照）

3. 今後について

- ①子ども・子育て会議の意見をふまえ、市の対応（案）を地元にし、双方の合意のもと、覚書を締結する。
- ②覚書の締結内容については、9 月議会において報告する。

【参考】

出雲市立幼稚園（27 園）の園児数（5/1 時点）の推移

年度	H27	H28	H29	H30
園児数計	1,369	1,365	1,280	1,252
（3 歳児）	370	389	380	355
（4 歳児）	509	438	438	432
（5 歳児）	490	538	462	465